

2014

平成 26 年 3 月 発行

日本山岳会 千葉支部



J・A・C

(第26号)

千葉支部だより

発行者 諏訪吉春
編集者 吉野聰

厳冬の足尾・松木溪谷を歩く
群馬支部が参加し、4支部懇親会へ



恒例の千葉、茨城、栃木の合同懇親会が2月1日～2日、日光市足尾町銀山平の国民宿舎「かじか荘」で行われ、7回目の今回から新たに群馬支部が構成メンバーに加わった。楽しみだった「備前楯山」への登山は林道凍結と落石で危険と判断。日本のグランドキャニオンとよばれる松木溪谷の散策となったが、山野井武夫栃木支部長は「悪条件で登山は残念だが、その分、宴会で頑張ってください」とユーモアを交えた歓迎のあいさつで会場の参加者をわかせた。来賓の森武昭・日本山岳会会長は「来年110周年を迎える山岳会は支部活動の活性化が重要。それぞれの支部で登山教室、講演会などを通じて多くの仲間を増やしてほしい」と述べた。参加者は資料館や銅山を見学、日本の近代化をけん引した足尾の歴史を学んだ。

(三木雄三)

＝関連記事、参加者は2面に掲載

来年千葉で会いましょう…

殖産興業で近代化を急ぐ明治の日本。そんな時代の中で、日本最初で最大の鉱害が発生した足尾銅山。ともすれば「負の遺産」でしか語られてこなかった足尾銅山と足尾町。1日午後からの講演会で地元 NPO 足尾歴史館館長の長井一雄さんは「鉱害はとりとめのない事実だが、足尾の歴史を学ぶと日本の近代国家づくりに多大な貢献をしてきたのもまた事実。東京、横浜、足尾といわれるほど隆盛を誇り、1万人の人が住んでいた。古河電工、富士電気、富士通、横浜ゴム、日本軽金属、朝日生命など多くの企業を起こしたのも足尾。地球環境問題が叫ばれる今、『光と影』『正と負』の両面を合わせ持つ地域として足尾を世界遺産にしたい」と述べ、「多くの人に来てほしい」と強調した。歴史館では当時の写真、貴重な資料などの展示物で理解を深めた。千葉支部の参加者からは「公害の原点とばかり思っていたが、いろいろと考えさせられた」との声も聞かれた。



この日の宿は銀山平の「かじか荘」。アルカリで肌がつやつやすることから「美肌の湯」の別名も。懇親会は盛り上がり、千葉支部が持ち込んだ成田の酒「不動」も大好評。宴もたけなわ。各テーブルからは「来年は千葉が会場だね。千葉は魚がおいしいから楽しみにしてるよ…」と期待された。

2日は、煙害で一木一草もない松木溪谷へ。どこまでもまっすぐ沢を進むと皇海山。途中の銅親水公園に「わたらせがわ源流の碑」があった。植林し、緑再生の現場も見た。雪化粧の山は社山。山の向こうは中禅寺湖だ。

町に戻り、食堂で昼食。「来年は、お願いします」「千葉で会いましょう」と見送られ、足尾を後にした。

◇次年度からの4支部合同懇親会の順番は千葉→茨城→群馬→栃木です。

千葉支部の参加者は、諏訪吉春、三木雄三、谷内剛、小澤けい子、鈴木美代、山崎完治、結城純一、石岡慎介、坂上光恵、黒田正雄、高橋琢子、柳下忠義、大浦陽子、金子有美子、柳川しげよ。(順不同・敬称略)

「富士山シンポ」と富士塚探訪会

「波の伊八の影響か」

公益事業の一環として千葉支部が後援した東京湾学会主催の公開シンポジウム「房総から望む富士山の自然と文化」が2月8日、千葉市の県立中央博物館で開かれ、斉藤泰嘉筑波大教授が「富士と波の転生一波の伊八と葛飾北斎」、東京湾学会会長でもある佐藤毅江戸川大教授が「富士山と文学」をテーマに講演した。

大きな波にもまれる舟と遠くの富士山を描いた北斎の『神奈川沖浪裏』は富士山が登場する浮世絵として世界で最も有名なものの一つだが、斉藤さんは作品の成立に、鴨川生まれの波の伊八の欄間彫刻『波に宝珠』が影響を与えたのでは、との視点から「間違いなく北斎は『波に宝珠』を見ているに違いない」とし、さらに「『波に宝珠』はゴッホの油絵、カミーユ・クローデルの彫刻、ドビッシーの交響詩に引き継がれていく」など興味深く解説した。

また佐藤さんは富士山が噴煙を上げ、さらに噴火した時代を調べ、万葉集や竹取物語、更級日記、さらに西行や芭蕉、太宰治らの作品をとおして、それらの時代の人たちが富士山をどう見ていたのかを説明した。



「房総最大の富士塚を訪ねる」



また、2月15日には元船橋市西図書館館長で東京湾学会理事、綿貫啓一さんの案内で市原市八幡の飯香岡八幡宮にある富士塚などを見学した。富士塚は、富士信仰の集団、富士講の人たちが富士山の参拝、あるいは富士登山に代わる山として溶岩を積み上げたり、丘など自然地形を利用して頂上に浅間神社を祀った築山で、富士山信仰が爆発的な人気を集めた江戸時代から各地に造られた。

見学した富士塚は県内では最大級といわれ、登山道や合目石、さらにお中道や大沢崩れもある立派なものだ。参加者たちは、説明を聞きながら、雪が残る富士塚を登って楽しんだ。

(三木雄三)

冬の高尾、自然観察会に参加して

2月5日、日本山岳会高尾の森づくりの会生態調査班の「冬芽観察会」に千葉支部から鈴木美代、黒田正雄、櫻田直克、山崎完治の4人が参加させて頂きました。

冬の樹木は、翌春に花や葉になる芽をつけて冬を越しますが、この芽の形・色・付き方や落葉した痕の葉痕の模様の特徴などから樹木の名前を知ること、樹木の指紋とも言われています。

当日JR高尾駅北口からバスに乗り、一面の雪で雪国に来たような摺差バス停で下車、ここで自家用車利用組と合流し、9時30分道標に従い北高尾山稜縦走コースを目指す。途中蛇滝の上にケーブルカーの駅舎を眺めながら、北高尾山稜縦走コースに出て小下沢分岐から富士見台に向かう。雪に足を取られながら卵形で先端が星形に枝分かれした毛が密生しているウツギ、落葉した痕の模様が羊の顔に似ているオニグルミ、筆ペンの先のような形をしたクマノミズキなどの芽を観察しながら、童心に戻り雪と戯れ、木立の間から見える富士山の雄姿に歓声を上げ、正午に富士見台に到着した。ここで楽しい昼食になり思い思いに雪を振り払い談笑しながら持参のお弁当を食

べる。



12時40分、富士見台を出発し、高ドッケ南尾根コースの分岐で帰路のバスの時間等を考慮し、高ドッケ南尾根コースをトラバースして、林道小下沢線二番口に向かう。14時、二番口四阿に到着、日影バス停からバスに乗りJR高尾駅で、高尾の森づくりの会生態調査班の皆様のご指導に感謝するとともに、ご迷惑をおかけしましたことに深謝し、千葉での自然観察会でお会いできる日を楽しみにしながらお別れしました。

樹木の観察は、家の近くの公園等でも観察できますので、ルーペを持って出かけて見てはいかがでしょうか。

(山崎 完治)



塔の岳 300名山取材山行

期 日：2013年12月14日(土)～15日(日)

参加者：諏訪吉春(L)、山口文嗣(SL)、山崎完治、神山良雄、小澤けい子、渡邊信一、
柳川しげよ (敬称略)

忘年山行と300名山の取材を兼ね、私たち7人は午前9時、小田急線秦野駅に集まった。表尾根がくつきり。晴天だ。

今夜は小屋泊まり。夕ご飯はキムチ鍋。まずは食材の買い出しだ。チームワークの良さでさっさと済ませ、お酒も買い込んだ。全員で荷を分担し、予約しておいたタクシーでヤビツ峠へと向かう。この峠は、これから登る表尾根への入り口だが、東へ向かえばイタツミ尾根からやはり300名山の大山にも通じている。

10時45分、ひときわ大きい三ノ塔に向けてヤビツ峠を出発する。歩き始めはきつい。二ノ塔を過ぎて1204メートルの三ノ塔へは予定通り12時45分に到着した。振り返るとピラミッドの大山がきれいだ。一服して先を急ぐ。行者岳の岩場を過ぎ、息を切らして汗を流すと16時10分、今夜の宿、木の又小屋に到着した。小屋を守り28年だというご夫婦が温かく迎えてくれた。そうそう忘年会の準備に取り掛かる。名物「大山とうふ」や油揚げ入りの特性キムチ鍋の出来上がり。貸し切り同然の小屋で宴会は盛り上がる。夜景もキラキラと見事。今回参加した神山さんのパラグライダーの話題でいっそう盛り上がる。ランプの小屋の楽しい夜。ほのかなランプの灯りが仲間の顔を照らし出す。山小屋のご夫婦のアットフォー

ムな心遣いで夜が更けるのも忘れ、楽しい時間は過ぎていった。



朝、富士山が素晴らしい。きょうも晴天だ。8時に小屋を出発。30分で塔ノ岳(1491メートル)の山頂だ。「なんと贅沢な展望だろう」。玄倉川の深い谷や蛭ヶ岳、歩いてきた表尾根、箱根連山、そして江の島…。

大倉尾根を金冷やしの分岐で曲がり、10時45分に鍋割山に到着した。丹沢でも人気の山のひとつで、日曜日とあって若者たちでにぎわっていた。西山林道経由で大倉へ下山したのは13時55分だった。

(柳川しげよ)

キラリ輝く海・富山西尾根

期 日：2014年1月26日（日）

参加者：石岡慎介、黒田正雄、佐藤明夫、高橋琢子、三木雄三（SL）、
三田博・芳江(高橋友人)、山口文嗣（L）、山崎完治、吉永英明（敬称略）

富山と言えば「南総里見八犬伝」、双耳峰の美しい山。西尾根って？岩井駅方面から改めて富山を眺めて見ると、北峰から西に向かったの尾根がゴツゴツした恐竜の背中のように長々と続いている。道の駅「富楽里」近く、高速道をくぐると登山口だ。

「さあ、頑張ろう」とリーダーの山口さんが皆に声をかけた。先頭を務めるサブリーダーの三木さんから「アップダウンの連続で、ヤセ尾根。足元注意」と告げられる。フー手強い。3～4のピークを超え、隣を走っていた高速道を見下ろすようになると南に館山湾がキラキラと輝き、北には津辺野山が大らかな姿を見せている。登山道はヤセ尾根になり一汗かいた頃、足元に淡い紫色のタチツボスミレが房総の早い春を告げていた。

伏姫籠窟分岐からが西尾根の核心部。切り立った尾根と連続するピーク、また植生も変化した。スタジイの森に入る頃、三木さんが「見てごらん。伊豆の山にはたくさんあるけど、房総の山には珍しいカラタチバナ（百両）だよ」と。どこから種が運ばれてきたのか傾斜地の若芽が健気だ。

春めいた風とどこからともなく漂ってくるスイセンの香りに後押しされて、ようやく北峰に到着。10年程前に登った同じ富

山であることを忘れさせる程変化に富んだ楽しい山行となった。



この日は暖かく、富士山を見ることができなかった。が、帰りの電車から見た真っ赤な夕陽が海に沈んでいく様子と黒い富士山のシルエットが心に強く残った。

（高橋琢子）

コース

岩井駅出発(9:50)－登山口発(10:25)
－165mポイント着(11:10)－伏姫籠窟分岐着(11:30)－265mポイント着(12:10)－富山北峰着(13:20)－富山北峰発(13:55)－富山南峰着(14:15)－福満寺着(15:10)－岩井駅着(15:50)

早春の手賀沼湖畔を歩く

期 日：2014年1月18日(土)

参加者：大浦陽子、梶田義弘、金子有美子、黒田正雄（L）、香高真奈美、櫻田直克、
佐藤明夫、鈴木美代、諏訪吉春、高橋琢子、三木雄三、柳川しげよ、湯下正子
(敬称略)

心配していた天候も回復。晴れ間が広がり始めた午前9時30分、我孫子駅に13人が集合した。簡単な自己紹介の後、まずは随筆家でジャーナリストの杉村楚人冠邸へ向かう。ツバキを愛したというだけあって、広大な庭には多様な種類のツバキの大木が美しい花を咲かせていた。「筑波見ゆ 冬晴れの 洪なる空に」の句碑をあとに、志賀直哉邸跡へ。

再築された書斎の縁側に座ってみる。かつては、この場所から手賀沼が見えたそう。白樺文学館では柳宗悦や白樺派の文人の資料を見たり音楽を聴いて、限定販売の「白樺カレー」を買い込んだ。

「さあ、歩こう」。手賀沼公園ボート乗り場が湖畔歩きの出発点。歩きだしてほどなく「船戸の森」にある武者小路実篤邸跡に立ち寄った。丘の道には春の花、オオイヌノフグリが咲いていた。

カワセミを撮影しようという大勢のアマチュアカメラマンを横目で見ながら11時55分、北柏ふるさと公園内の陽だまりでランチタイム。今日のリーダー、黒田さんがお湯を沸かし、皆にコーヒーを振舞ってくれた。心も体もほっかほか。感謝...



ここからコースは沼の北岸から南岸へと回り込む。利根川からの水を引く北千葉導水路を過ぎ、沼に定住しているのだというコブハクチョウのつがいにカメラを向ける。しばらく歩いて手賀大橋へ。ここまでで沼の半周、約10キロメートルを歩いた。湖畔に建つ建物の展望台からは、暖かな午後の陽ざしとスカイツリーが見えた。

湯下さんが予約しておいてくれた我孫子駅近くのレストラン「コ・ピアン」での反省会も楽しかった。

(香高真奈美)

投稿

せつない話 「巻き枯らし」

黒田正雄

もう10年も前のことだろうか。山梨の山を歩いていたとき、赤松の幹の地上50㌢ほどの位置に、チェーンソーで入れたらしい古い二筋の刻みを見た。そんな樹が何本かあったが、どれも枯木となっていた。当然こういうことをすれば、樹は大地から水を吸い上げることができなくなり、数年にして立ち枯れとなる。不審に思い、ちょうど同行していた山林関係に詳しい友人に聞いてみた。友人は、これは「巻き枯らし」という、以前からある一種の間伐方法なのだと教えてくれた。

その後、山中でまた異な現象を再三見かけた。それは植林し成長した若木の肌を、明らかに人が鉋などで一部剥ぎ取ったものである。ある個所では説明板が建っていて、こう書かれていた。「巻き枯らし間伐実施林——巻き枯らし間伐は木を切り倒さない、簡単・低コストな間伐方法です XX農林振興センター」

近年、安い外材が大量に輸入され木材価格が下がり、国内での林業が成り立たなくなっていることや、山村の高齢化もあって山林作業に従事する人が少なくなっている状況から、手入れもされず荒れるまま放置されている植林が多い。このため、伐採に代わる手段として、以前からあった「巻き枯らし」が復活しだしたのである。

今、間伐された木は搬出されることもなく、林間に打ち捨てられている。累々と横たわる伐木を見るのは痛ましい。間伐、除伐された木は、その死をもって他の木を生

かし育てるのだが、本来の材としても活かされていないのである。巻き枯らしは、生きる樹木の糧道を絶ち生殺しするわけだから、一層痛ましくもむなしい。



地球上に共生する生命体を大別すると動物と植物であるが、自ら動けず、言葉を発せない植物を、多くの人は生命体として意識していないのではないか。痛み、感情、自意識のない物質は単に搾取の対象としてしか見ていないし、何かの危害を加えても罪の意識は持たないだろう。巻き枯らしとは、何とも切ない話ではないか。

数十年前に、巻き枯らしを行った大きな樹々が今一斉に朽ち倒れつつある。その無残な状況を、奥多摩の笹尾根の笛吹（うずしき）峠辺で見ることができる。その有様を見るにつけ、われわれ人間は、地球上の生きとし生けるものへの畏敬の念を、もっと持たなければいけない、との思いが強まる。

こんにちは

新入会員・会友のコーナー

母の言葉が山のきっかけに。
会友 柳川しげよ



夏負けはしないぞ。きれいな花に会いに行くぞ…。

たおやかな山に延びる道をバスはどんどん登っていく。青空と大地の境をどんどん進む。いつから、こんなに山が好きになったのか、わからない。ただ、母は花の大好きな優しい人だった。そんな私といえば花にも自然にもまったく縁のない生活でしたが、母と見た花の美しさにとりつかれました。

辛いこともありました。もう「好きなことをやれよ。自分のやりたいことを」と母に背中を押されました。尾瀬で見たミズバショウ。荒天で撤退、また撤退。三度目にしてやっとたどり着いた富士山頂。ヤッホーと叫びました。

それから5年、花と風を求めてあちこちの山へ出かけました。6年目の夏、霧ヶ峰へのバスの中、「千葉の人か」と声を掛けてきた人がいた。上等な言葉じゃなく、“だっぺ”丸出しの千葉弁。「成

田です」と言うと、「やっぱりそうか」…。隣の席にいたのが三木さんでした。

偶然というのは不思議なもので、実は30年前に三木さんと会っていたのです。当時、バリバリの若い記者さんで、私は八日市場市にある役所勤務の地方公務員でした。毎朝、ジープで乗り付けます。カメラを肩にひょいと下りて「おす」と上司の席にやってくるのです。お茶を運んだのが二十歳そこそこの私でした。

「八日市場にいませんでしたか」「えっ、いたよ」「覚えてますか」「えっ、知らないよ。どこの飲み屋かなあ…」。

説明すると、「そうだったの。へーっ」と大笑い。

そうして千葉支部の会友に入れていただきました。温かい人たちとの出会い、そして素晴らしい山にも出会えました。もう登れなくなるまで、まだまだ歩いていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。ヤッホー。

日本山岳会千葉支部は会員・会友を募集しています。

問い合わせ先
諏訪吉春

三木雄三

追悼

姉御と慕われた前事務局長の豊倉さと子様(会員番号13888)が2月19日、また、矢野賢二様(同15163)が3月3日、逝去されました。豊倉様は2003年7月に日本山岳会に入会。07年6月の支部設立以来、「縁の下の力持ち」として身を粉にして支部運営に尽力されました。矢野様は2012年6月に入会、温和人柄が誰からも好かれました。訃報に接し、お二人に寄せられた追悼文を紹介します。

豊倉さと子さんを偲んで

諏訪吉春



(船橋港の「しらせ」見学会での豊倉さん 三木写す)

豊倉さと子さんとは日本山岳会千葉支部の設立以来のお付き合いで7年になります。前任の篠崎支部長の下で、豊倉さんが広範な仕事の総務を担当し私は事務局長として、また、後半は彼女が事務局長になり私は副支部長として、支部の運営全般にわたり大変にお世話になりました。豊倉さんは何よりも意思の強固な人でした。明晰な頭脳と的確な判断力と瞬時の決断力を持つ姉御でした。また、絶えず周囲の人を和やかにするユーモア精神に溢れ、彼女の周りには信頼と笑いの渦がありました。

訃報の連絡を受けて、翌日、ご自宅に、支部の仲間とお別れのご焼香に伺いました。立派な旧家の奥座敷に豊倉さんは静かに横たわっておりました。蒲団の上に置かれた守り刀がなければ、暫しの眠りの休息を取っているかのようにも見えました。3カ月も及ぶ辛い闘病生活で痩せては居られましたが、キリット口元が結ばれ、何か高僧が瞑想に耽るような、落ち着いたある凛とした綺麗な顔でした。実に厳粛な、まるで、豊倉さんの矜持が強い美しい精神が宿っているようでした。私はその顔を見て、心の中で『豊倉さん、もう、いいよ。休んでもいいんだよ』と思わず口走り目頭が熱く、なるのを禁じ負えません。豊倉さんお疲れ様でした。ゆっくりとお休みください。心からのご冥福をお祈り申し上げます。

矢野賢二さんの悲報に接して

高橋正彦

3月10日午後、三木副支部長から矢野さんが3月3日の亡くなられたことをご存知ですか、と電話連絡があり、余りの突然にただ呆然とするのみでした。

矢野さんは千葉支部設立と同時に会友となられ、支部山行の帰りの電車でご一緒の折、寡黙な矢野さんが若い頃は当時の食糧・装備を含め3000m稜線を闊歩されたことを懐かしむように話され、それが縁でJAC本会員を薦めたところ、快諾され小生と吉永さんの推薦で本会員になりました。このように山の話はしましたが経歴等は全く存知ないため、以下は矢野さんの奥さんからお電話でお聞きしたこと簡略に記します。誤りがあった場合はご了承ください。

矢野さんは昭和12年3月13日、船橋夏見で出生され、都立墨田工業高校を卒業され、株杉田製線工業に就職され設備部長の重責を果たしながら登山を愛好され今日に至っております。2年程前より体調がすぐれず、再三、検査を受けるもどこも悪いところはないという返事で、亡くなる当日も船橋市立医療センターで検査を午後4時に終了し、帰宅するため3階の駐車場で倒れられ、その日に亡くなられたので奥さんとも十分に話もする事が出来なかったことが心残りとの事でした。平成26年3月3日逝去、享年あと10日で77歳でした。ご冥福を祈ります。

豊倉さと子さんのこと

湯下正子

豊倉さんと私は高校生のときに同じクラスで隣の席でした。その時から約50年過ぎての別れでした。一緒に旅行をしたり、映画を観たり、博物館や美術館へ行ったり思い出せばきりがありません。暫く会っていないのにパキスタンのカラチ空港でばったり会ってお互いに「どうしてここにいるの?」と言い合ったことも懐かしい思い出です。豊倉さんは旅行が大好きで世界中を旅行していました。数年前、私が「山登りをしたい」と言った時は初歩から教えてくれるベテランの人を紹介してくれました。お陰で全くの初心者の方も山を好きになり、その後千葉支部へ参加することになりました。

豊倉さんは2000年に癌を発症しました。それでもいつも元気でした。7年前再発、その後再再発しましたが病状を詳細に話してくれました。病気が重いことは伝わるのですが、私が「誤診ではないの?」と言うほど元気でしたし冷静でした。その態度は暮れの12月中旬に「カウントダウンに入った」と話してくれた後も変わりませんでした。私は最後の2ヶ月間で豊倉さんの理性的な強さと人への心遣い溢れた優しさを改めて教えて貰いました。ご家族の方が「がん患者のさとちゃんを第三者のさとちゃんが冷静に看ていた。」と話してくれましたが、この言葉は豊倉さんを実によく表していると思います。体力が弱っていく中でいつも「ありがとう」と言ってくれ、私は「又ね」と言って別れました。いつか会ったらまた友達になって欲しい人です。

天国の豊倉さんへ沢山の思い出と優しさに感謝の祈りを捧げます。

役員会の報告

12月報告 2013年12月17日(火) 市川アイリンク

出席者 小板橋、小澤、鈴木、諏訪、三木、谷内、結城、吉野(8名) (敬称略、五十音順)

1 報告事項

- ・講演会「富士山と房総の自然を語る集い」・300名山 荒船山、塔ノ岳
- ・年次晩餐会と全国支部長会議

2 行事予定

- ・新年山行(富山西尾根)・房総半島分水嶺走破記念出版

3 検討事項

- ・支部山行実施要領・会員、会友名簿作成 外

1月報告 2014年1月21日(火) 市川アイリンク

出席者 小板橋、小澤、坂上、鈴木、諏訪、三木、山口、結城、吉野(9名)

1 報告事項

- ・山行報告(手賀沼ハイキング)

2 行事予定

- ・山行予定(富山西尾根)
- ・三支部合同懇親会(栃木支部担当)・公開シンポジウム「房総から望む富士山の自然と文化」

3 検討事項

- ・房総半島分水嶺走破記念誌出版について・支部山行実施要領・会員、会友名簿作成 外

2月報告 2月25日(火) 市川アイリンク

出席者 岩尾、小澤、坂上、篠崎、鈴木、諏訪、山崎、山口、吉野(9名)

1 報告事項

- ・25年度事業報告、会計報告の作成・山行報告(富山西尾根)
- ・3支部合同懇談会→25年度から群馬が加わり4支部になる。

26年度千葉の番、2月7日(土)～8日(日)館山を予定したい。

- ・高尾自然観察会

2 行事予定

- ・公益事業、晴香園(鋸山)・春山山行(高峰山、黒斑山)

3 協議事項

- ・4支部合同懇親会 委員長に結城集会委員長
- ・支部総会 5月17日(土)京葉銀行プラザ
- ・支部山行実施要領・会員、会友増強運動

お 知 ら せ

「2014年度千葉支部通常総会開催のお知らせ」

下記の通り、第7回通常総会を開催します。この総会は2013年度事業並びに決算報告、2014年度事業並びに収支予算計画などを審議する重要な総会です。追って詳しいご案内を差し上げますが、今からご予約をお願いします。

また、総会終了後はいつものように懇親会を予定しております。

総会開催日 2014年5月17日(土)

14:00～16:00 京葉銀行文化プラザ 6階(樺)

懇親会 16:30～18:30 居酒屋 「美弥和」

「千葉支部会員・会友の名簿作成について」

千葉支部会員・会友の皆様、いつも千葉支部の活動にご支援・ご協力いただきましてありがとうございます。これからも、皆様が気軽にご参加いただけるような山行・ハイキング等の楽しい企画を推進して行きたく考えております。

最近、千葉支部会員・会友名簿があれば、相互に連絡を取り合うなど有効に活用が出来るのでは、との声が数多く出されております。また、他の支部においても、名簿を発行して山行計画を含めた行事に活用しているところも多いと聞いております。

千葉支部でも、会員・会友の名簿作成を計画しています。掲載項目としては、①氏名②会員番号③住所④電話番号⑤メールアドレス等を考えております。

なお、個人情報保護の観点から、このような名簿の記載を望まない方がおられましたら下記事務局までご連絡願います。

連絡先 谷内 剛

「房総半島分水嶺踏査記録報告書の出版予告」

房総半島の分水嶺踏査プロジェクトは千葉支部の総力を結集し2009年10月に長柄町六地蔵を第1回目の出発地点として、踏査回数30回、会員・会友の延べ参加人数320人の協力のもと、昨年10月23日に無事にゴール地点、館山「房の大山」に到達しました。実に4年の歳月をかけた大事業でした。このたび、この記録を報告書として一冊の本としたところです。房総半島を登山する際の参考書とすべく千葉支部会員・会友の皆様に配布いたします。

支部山行の予定

今年の海外遠征は「玉山」 10月に実施

千葉支部は、今年の海外遠征として10月に台湾最高峰の「玉山」(ぎょくざん・ユイシャン)を実施するため、台湾山岳協会との間で計画の準備を始めました。

昨年7月の「雪山」(せつざん・シユエシャン)遠征の際、台湾山岳協会の何中達(カ・チュウタ)会長のあいさつ「来年はぜひ玉山へ」の呼びかけに親善交流として応じたものです。計画の進み具合などは、6月号の支部だよりに掲載します。

ちなみに、玉山は公式標高は3952メートルですが、1995年と1999年の衛星測量によると3978メートルとのことです。

4月以降の予定

行き先	日程	申込先	締切	備考
木ノ根峠	4月6日(日)	三木雄三	4月1日(火)	内房線岩井駅からヘッドランプ持参
大菩薩北尾根 下降	5月24日(土) ~25日(日)	黒田正雄	4月11日 (金)	定員8名 宿泊 介山荘 (予定)
鳴虫山	6月7日(土)	柳川しげよ	5月30日 (金)	
上高地	7月5日(土) ~6日(日) (予定)	結城純一		山岳写真の写し方 教室

編集後記

支部懇親会も群馬が加わり、4支部の集まりになりました。26年度は千葉が当番。2月7日(土)~8日(日)に館山方面で開催を予定しているとのこと。詳細については、今後、支部だよりに掲載してお知らせしてまいります。会員、会友の皆様のご協力をお願いいたします。

S. Y生

